

あるライブラ構成員の 日常のお話

八十壺

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ライブラに休業中のメンバーが復帰しました。どうやら、ジジ臭い(?)主人公が頑張るお話。

「趣味は散歩と盆栽。」

「え?」

シリアスよりもギャグ展開。基本原作沿いで進行します。たまにオリジナル話も入ってくる予定です。

※初小説です。もともとの文章能力も語彙力もあつたらいいなー、ぐらいしかありませんが、どうぞよろしくお願いいたします!

目次

レオナルド曰く

1

レオナルド曰く

ちよえつす、レオナルドつす。

今はサブウエイで昼飯を買って仕事場の事務所へ帰る途中です。仕事場つてのが秘密結社ライブラつてとこで、事情があつてそこに所属してます。ライブラについての説明は省略する。

ここは元・紐育。ニューヨーク 現在はHヘルサレムズ・ロッドLニューヨークつて名前になりました。三年前に紐育は一晩で崩落。んでもつて、色々ナンカ混ぜられちゃつて現在がある。詳しい話は割愛させていただきます。

今回はライブラに最近加わつた変わり者の話をしようと思う。いや、その前にライブラにいるメンバー自体一癖も二癖もある人達ばかりだけれども。

まあそこは置いといて。

その最近加わつたメンバーを紹介します。

見た目は鋭い感じの東洋人。

顔は割かし整つてるからモテる人間だろうな。ちきしよう。

どこの人か気になって聞いたけど、はぐらかされた。一応名前も日本名だし日本人か

などと思う。

謎が多い部分もあるが悪い人ではない。うーん……ステイブンさん辺りは何か知ってそうだけど怖いから聞かない。

性格は見た目と逆で、のほほんとした呑気な人で最初話したときは驚いた。だって、怖い感じの人が「や、初めまして」ってにこやかに来たら誰だって驚くと思う。

そして、その人はなんていうか、実年齢が24と言う割には、どこことなくジジ臭い。近所にいる気の良いジイサンみたいな感じだ。でも、このH^{ヘルサレムス・ロッド}Lでキズ一つ負わずに暮らしているところを見ると只の気の良いジイサンじゃないんだろうな。ジイサンじゃなくて見た目青年だけど。

この前聞いた話だと銃弾を避けて打ち返すくらいには強いそうだ。ザツプさん情報だから信用出来るか分からないけど。

あ、事務所に着いたから話はコレぐらいで。

ドアを開けて事務所内を見ると目の前のソファァーに例の彼が座っていた。今日は来ないと思ったのにいつの間にか出勤してきたようだ。

「お帰りレオナルド。怪我なかったか?」

「ええ怪我もなく無事帰還です」

声が聞こえないから奥を見ると、ステイブンさんやクラウスさんがいた。ステイ

ブンさんは書類整理で忙しそうだ。クラウスさんは鬼気迫る勢いでゲームに勤しんでいた。後ろに何か見えるのは気のせいじゃないと思う。ザップさんは：新しい女の所に違いない。

「そろそろお昼にしませんか？サブウェイでサンドイッチ買って来たんすよ」

「あら俺もバーガー買ってきちやったな。まあクラウスさん達にも声掛けて一緒にお昼にしよう」

彼の脇にはバーガーショップのロゴが入った紙袋が置かれていた。

「そうっすね皆でお昼にしましょう」

彼はスツと立ち上がるとクラウスさん達の方に歩いていった。どうやらドーナツも買ってきたようで、ギルベルトさんに手渡している。

なんだろう、二人が会話していると年が離れてる筈なのに違和感がない……。

そんな事を考えているといつの間にか目の前にギルベルトさんがいた。

「コーヒーをお入れ致しますでしょうか？」

「あ！お願いしますギルベルトさん」

そうだ、名前を言ってなかったな。彼の名前は岸崎庸一郎きしざきよういちろう。新しく加わったライブラのメンバーだ。